

袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	令和 7 年 5 月 袋井市教育委員会 定例会
招 集 日 時	令和 7 年 5 月 29 日 (水) 午後 1 時 30 分
会 議 時 間	午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分まで（1 時間 45 分）
場 所	教育会館 3 階 I C T 研修室
出 席 者	鈴木一吉 教育長 鈴木万里子 委員 溝口知秀 委員 吉田陽子 委員 山本茂広 委員 (計：5 人)
傍 聴 者	無し
当局出席者	石黒克明 教育部長 小澤一則 教育監 山岡ゆかり 教育企画課長 平野邦孝 未来の教育推進室長 戸塚建司 おいしい給食課長 荒浪 健 教育保育課長 田中 慎 学校教育課長 中村悟史 魅力ある部活動推進室長 中村聡志 生涯学習課長 小久江暁子 袋井図書館長 白澤 崇 歴史文化館長 渡邊規恵 教育企画課課長補佐 廣岡真理 教育企画課教育総務係長 (計：13 人) (合計：18 人)
会議に付した 事 件	別紙「令和 7 年 5 月 袋井市教育委員会定例会 議事日程」の とおり

令和7年5月 袋井市教育委員会定例会 日程

日時：令和7年5月29日(木)

午前9時30分開会

場所：袋井市教育会館 3階 ICT研修室

会 議 日 程

日程第1 開 会

日程第2 会議録署名委員の指名

日程第3 会議録の承認

日程第4 教育長報告

日程第5 教育部月例事業報告

日程第6 議 事（会議に付すべき事件）

（1）協議事項

協第8号 令和7年度6月一般会計補正予算について

（2）報告事項

報第61号 令和7年度当初の要保護及び準要保護児童生徒の認定数について

報第62号 インドネシア政府関係者の学校給食の視察研修について

報第63号 袋井市認証保育所保育料補助金交付要綱の一部改正について

報第64号 寄附品の受納について

報第65号 令和6年度末 市内中学校生徒進路状況について

報第66号 令和7年度 袋井市中学生広島平和記念式典中学生派遣（第9回）について

報第67号 令和7年度「未来 Create Club」の実施について

報第68号 令和7年度 袋井市人権・同和研修会の開催について

報第69号 令和7年度 特別な支援を要する児童生徒の状況について

報第70号 令和7年度不登校児童生徒への支援について

報第71号 令和6年度 子ども読書活動推進計画(第4次)の取組状況について

日程第7 その他

（1）連絡事項

ア 令和7年度「次世代人材育成・交流プログラム@SIST(アシスト)」の実施について

イ 静岡理工科大学 令和7年度第1回公開講座

（2）次回定例会等の予定について

6月教育委員会定例会

令和7年6月30日（月） 午後1時30分 月見の里学遊館 集会室C

（3）その他

日程第8 閉 会

1 開会

●教育長

2 会議録署名委員の指名

●教育長

鈴木委員 と 溝口委員 を指名

3 会議録の承認

●教育長

4月の定例会の会議録については、承認

4 教育長報告

●教育長

資料にて確認

5 教育部月例事業報告

●各課長

資料にて確認

6 議事

【議決事項】

●教育長

今回は、議決事項はございません。

協議事項について、事務局から説明をお願いします

【協議事項】

協第8号 令和7年度6月一般会計補正予算について

●教育企画課長

資料に基づき説明(一般会計補正予算全体について説明)

●教育長

補足説明はありますか。

●おいしい給食課課長

資料に基づきおいしい給食課案件の説明

●教育企画課長

資料に基づき教育企画課案件の説明

●溝口委員

今の「架け橋プロジェクト」の関係で、令和6年度までにやるのがちょっとよくわからなかったんですが、調査研究をやるのが目的なのか、いじめとか不登校を減らすのが目的なのかどちらですか。

●教育企画課長

令和6年度まで架け橋プログラムとして幼保と小学校が連携するということに組んで参りました。今回は、令和7年度からの新たな不登校やいじめ対策に対する調査研究ということなので、1年ですぐに具体的な成果に結びつくものではないと思いますが、具体的にどんなことをやって、そういった児童を減らしましょうということを、幼小関係者が連携し、チームで一緒にこれから調査、研究していくものになります。先進的な取り組み事例を作って、全国的に横展開していくことを狙った文科省の補助制度に、我々が手を挙げたものです。

●溝口委員

今までやってきたことと何が違うんですか。

●教育企画課長

以前は、幼保は幼保、小学校は小学校で、同じ学園であってもなかなか交流の機会もなく、また、民間園、公立園それぞれに園ごとの教育プログラムがあって、同じ小学校に上がってくるまでに一体性がなかったところを、令和4年から6年に行った「架け橋プロジェクト」によって、同じ教育プログラムを使って、民間園でも公立の園でも、1つの大きな柱の中で教育を進め、小学校に上がった後も連携して教育していきましょうという取り組み、枠組みを作ったのが、令和4年から6年までです。民間園も含めて、そうした連携がとれる体制がこの3年で整い、一体的な教育プログラムで歩み始めてきているのが現時点です。

こうした幼小連携の体制が出来てきた中で、今度は不登校とかいじめ、こういった問題にも少し言及してみようというのが今回のものになります。

●教育部長

ちょっと補足をさせていただきます。

今担当課長が説明した通り、今まではこの図のですね、一番左側に幼児期からのスロープがありますが、就学前の5歳と小学校1年生との「架け橋プロジェクト」ここを重点的にやってきた中で、朝、4月5月に昇降口での登校渋りですとか、授業にスムーズに適応できなかったというような子が解消できているという実態があります。

その傾向を今度はいじめですとか不登校、小学校の高学年に上がっている段階までその架け橋プログラムを生かしながら実証事業として取り組んでいきたいという、まずは初めの1年ということでお考えいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

●溝口委員

はい。ありがとうございました。

せっかくこれだけ力かけて皆さんやってくれているので実績が出てくると嬉しいなと思います。ここで、研究だけされても困ったなっていうような思いがあるので、是非小学校につなげて子供たちが問題なく過ごせていじめや不登校も減るという方向に繋げてほしいです。

●教育長

よろしいですか。

ちょっと私から補足説明をさせていただきます。

幼小中接続による不登校いじめ研究というのはまだ私も全然ピンときませんが、幼小中接続を円滑にすると不登校がなくなるのかって、そんな因果関係がありますかと思いますが、文科の方でそういうメニューを作っていて、基本的に本市は「架け橋プロジェクト」をやってきたので、それをもっと何か効率よくするためにどうしようかということであれば、どうしても人が必要であるので、1回手を挙げてみようということ、何が正解かわかりませんが、その幼小中の円滑な接続が、やっぱり子供たちの円滑な学校生活や不登校にもつなげられればいいなという感じには思っていますが、データで出すのはなかなか難しいと思っています。また、この進捗や結果については皆さんに報告をさせていただきます。

これは協議事項ですので、令和7年6月の一般会計補正予算につきましては、原案の通りということで提出させていただくことでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございました。

【報告事項】

報第61号 令和7年度当初の要保護及び準要保護児童生徒の認定数について

●教育企画課長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

なし

報第62号、インドネシア政府関係者の学校給食の視察研修について

●おいしい給食課課長

資料に基づき説明

●教育長

実はインドネシアは今年の1月から学校給食を国として段階的に始めていくということで日本の給食を視察する過程で袋井市が全国から選ばれました。とても誇らしいことです。

政府関係者セキュリティの関係で、事前にマスコミ報道ができないのは残念ですが、結果については事後に報道提供したいと思います。

[質疑・意見(要旨)]

なし

第63号 袋井市認証保育所保育料補助金交付要綱の一部改正について

●教育保育課課長

資料に基づき説明

[質疑・意見(要旨)]

なし

第64号 寄付品の受納について

●教育保育課課長、図書館長

資料に基づき説明

[質疑・意見(要旨)]

なし

報第65号 令和6年度末 市内中学校生徒進路状況について

”

●魅力ある部活動推進室室長

資料に基づき説明

●吉田委員

全体の内の12人が就職されたということですね。

特性別に分析されているんですけども、ダブってる人とかも当然いますよね。

ですので、この12人がどういうところに就職したのか教えていただきたいですが、この10人が就職準備なのか家事手伝いなのか、人を中心に12人の内訳の数字を教えていただきたいですが。

●魅力ある部活動推進室室長

すみません。その細かい追跡はしていないのでわかりかねます。申し訳ありません。

●吉田委員

そうなんですね。でもやっぱり人1人ずつ見るということはとても大事だと思うので、もちろん属性の分析も大事ですけど、その子中心で見てもらいたいと思います。

その知的学級で就労先を検討中って3人あるんですけど、これは間に合わなかったということですか。どうしてこういう状況になったのか教えていただきたいです。

●魅力ある部活動推進室室長

1つは、希望していたところに入れずに、こういったことになったということもありますし、それから子供さんの状況等を考えたときに、すぐどこか進路先を決めるだとか就労先を決めるというよりも、ワークッションおいたほうがいいのかなという家庭の判断等もあったと思います。

●吉田委員

多分こういう子たちの就労先はB型作業所とか、あとは企業の障害者ワークとかになると思いますが、学校としてはきちんとそういういろんな関係機関と連携しながらやられたんでしょうか。

●魅力ある部活動推進室室長

そこはやっぱりお子さんとそれから保護者と面談等やっていきますので、その中でマッチできるように学校はできる限りのことはやっているとは思いますが、最終的にはもうマッチするところがなかったというところでこういった結果になっているのだと思います。

●吉田委員

頑張ってくださいたいです。ありがとうございました。

●鈴木委員

全体の状況の中で、県外高校への進路が7.3%って結構多いなと思いますが、これは、転居なのか、この他に県外の学校を選んでいるとか、自分の特技を生かすとかその理由がもしわかれば教えていただきたいです。

●魅力ある部活動推進室室長

いろんなパターンがあると思いますが、自分の知る限りで多いなと思うのが、現状自分の得意を伸ばすために県外の高校へ行く、例えばスポーツ系で県内の高校よりも県外でここに行った方が伸ばしてもらえるとという子はそういった高校に行くとか、或いは音楽関係で、全国クラスの学校や県外の高校に進学してそちらで力を発揮するという子たちは結構複数いたなっていうのは、現場にいたときは、感じました。

●鈴木委員

そういう選択をする子たちが、かつてよりも増えてきていると捉えていいですね。

●魅力ある部活動推進室室長

そうですね。

その前の状況はちょっと何とも言えないですが、そういうのもあると思いますし、あとは、例えば不登校で全寮制の高校が県外にもありますので、そういったところに、保護者の意向と本人の意向で環境を変えるということで、全寮制の高校に入るというのも幾つかありますので、本当にいろんなパターンがあるかなというふうに思います。

●鈴木委員

昔は聞かなかったですが、身近にも県外を選んだという人も聞くようになってきているので。感覚的にそう思ったので。

●魅力ある部活動推進室室長

実際に自分も現場にいるときに、県内の普通の県立高校等に入るぐらいの学力はあるんですけど、例えば漫画をやりたいってということで、通信制の高校を選んでそっちの道に行ったりだとか、或いは漫画が勉強できる専修学校の方に進学したりとかってということで、本当にニーズがいろいろあって、進路先もそれに合わせて、自分たちが学生の頃だったりとか働き出した10、20年ぐらい、30年ぐらい前に比べると、そういった進路先については本当に様々になってきているというのは感じます。

●山本委員

浜松市のスズキなど企業においては障害のある方などを何%以上雇用しなくてはならないというのが決まっているんですが、またそれに市として支援金を出しているようです。

●教育長

ありがとうございます。

いわゆる法定雇用率ですね。2.5%ですね。

また引き上げられますね。

1つだけ先ほど説明ありましたが高校の通級指導教室で、県立高校は通級指導教室を巡回方式でやっています。中学校の先生方はあまり知らないのですが、その先生方によく知ってもらいたいかなと思いますが、巡回なので、あるところから先生が来てそこで教えてくれるということで今袋井商業高校に1人います。

巡回の通級指導教室っていう教室がありますが、巡回なので、常設ではなくて、その対象の子がいて、条件が合えば巡回する先生が回ってきてくれるという仕組みを作っていますが、私立ではないので、県立高校だけにはそういう仕組みがあるということです。

私立はある意味その障害の受け皿になっている部分も当然ありますが、巡回の通級指導教室のおそらく啓発だけに限られているかなと思います。

報第 66 号 令和 7 年度 袋井市中学生広島平和記念式典中学生派遣（第 9 回）について

- 学校教育課課長
資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]
なし

報第 67 号 令和 7 年度「未来 Create Club」の実施について

- 学校教育課課長
資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]
なし

- 吉田委員

昨年も防災でテーマとして能登に行かれたということですが、今回、その方たちと今回参加する方たちとの直接交流というか、知識とか経験の受け渡しみたいなことは計画されていますか？

- 学校教育課課長

今のところ準備の段階で、直接一緒に会議をするという計画はありませんが、説明会が 8 月の 23 日となっていて、昨年の反省を生かすということは大事なことでいただいた意見を参考に事業を進めさせていただきます。

- 溝口委員

毎年思うんですけど、未来会議を最後やっていただきますが、テーマがかなり以前に比べたらはっきりしていると思いますが、中学生未来会議の中で、昨年もいろいろと提案をしてもらっていますが、そのフォローがしっかりとできているかなというのが一番心配でして、以前も、あれこれいろいろ中学生が言ってくれたのは我々はそれやったらとか、言ってた割には全くフォローができてなかったということがありまして、多分、学校からもそう聞いていますので、中学生がせっかく提案してくれたものはフォローして地域になげてあげるとか、そういうところまでいけたら素晴らしいなというふうに思っております。

- 学校教育課課長

はい。おっしゃる通り子供たちの願いとかアイデアを少しでも何か変わったっていうふうに感じてもらえるようにしていきたいと思います。

●鈴木委員

今の件に関係してなんですが、この防災の関係で、昨年、私、学校運営協議会に出席した時に、中学生がその前のときに実際にこんなことをやったらどうかと提案したことが実際の防災訓練に生かされてなかったということを伺って、少し残念だったという話をした中学生がいました。

もしできれば、未来会議で防災をテーマとした話し合いをしたときに防災関係者や地域の方たちにも呼び掛けて参加していただくのもいいかなと思いました。

●教育長

実は昨年度参加してくれた子たちは、能登に行ってきたそれを踏まえて自分たちで何ができるか考えて、市全体の防災隊長会議に出席をし、説明をして、その中からピックアップして、市内の2ヶ所の12月の地域域防災訓練ときに、出かけて行って、市民の方々にこういうことをやりましょうっていうことでプレゼンをしてくれました。

それは非常にいいことだったし、中学生が発言したことについて大人は聞いてくれますが、大人が発言してもなかなか聞いてもらえないですね。中学生がやると非常に聞いてくれるので、市の危機管理課も中学生が率先して防災対策やってくれることは、地域の防災力がすごく上がると言っていただいていたので評価していただきました。

ただすいません。大人がコントロールにしないっていう方針の中で子供たちが自分で考えて、どんな活動をするかっていうことを、先ほど吉田さん言ったように去年やったことはとても参考になると思うので、今年参加してくれる人たちに是非そんな機会を与えてあげてください。

●学校教育課課長

はい。ありがとうございます。

中学生の成果が見えるように、していきたいと思います

報第 68 号 令和 7 年度 袋井市人権・同和研修会の開催について

●学校教育課課長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

なし

報第 69 号 令和 7 年度 特別な支援を要する児童生徒の状況について

"

●学校教育課課長

資料に基づき説明

●溝口委員

特別支援学級の在籍者数っていうのはここ数年、そんなには増えていないというか意外と横ばいですが、次のページの通級に通う子がどんどん増えているようだが、その理由は何かありますか。

●学校教育課課長

通級指導教室の場合は、週に1時間から2時間という子もありますが、限られた時間の中でというところで、少し親御さんもハードル低いっていうところもあるかと思います。通級指導教室で状況改善されるのであればということで、そういうふうに考える親御さんもいらっしゃるかと思いますし、自分の教室を利用しながら1時間授業を抜けるというような形ですので、その子に合った支援を受けられるということで、通級指導教室が増えているということと、それとやっぱり多いのは、設置する学校がこれだけ増えて市内で半分の学校に設置をされているので、通級で支援を受けられるっていうのは、子供にとってもすごく大きなことだと思っております。

●溝口委員

今言ってくれたように、学校ですごく整理してくれていますので、それは安心していますが、逆に言うと、安易に通級指導教室に行ってしまうていないかというのが1個心配なところではあります。そこは注意していただきたいと思います。

それから、やはりこういう通級とか特別支援とか、特別支援は多分全国的にはどんどん人が増えているようなことありますが、一般の授業をするにあたり先生が足りないと言われている中でそれに対する影響っていうのは大きいと思いますがその辺袋井市はどうなんでしょうか。

●学校教育課課長

教員については、通級指導教室を増設するというところで県の方に人については要望しているのですが、それだけの人数で配当されているところです。

ただ一方で、溝口さんがおっしゃる通り、教員の数が絶対数足りないというところで、確かに袋井市内においても欠員が生じているという状況がありますので、そのところは教育長自ら県に要望をしてくださっておりますが、実態としては、欠員の状況があるというところなので、その子にとってどういう支援が必要かということで、特別支援学級で支援を受けていくのがその子にとってはいい、この子は通級指導教室で支援を受けていくのがいいというところは、適切な判断をしないといけないところがあるので、通級指導が必要な子たちがこれだけいるんだという実態があるところで、そういうような場を作っていくっていくことは必要なことだというふうに思いますので、教員の不足してるという大きな問題ではありますが引き続き対応していきたいと思います。

●溝口委員

通級とか特別支援もそうですけども、どちらに行くのか判断する人たちの判断基準が、下がってきてないかというところは心配しています。

●学校教育課課長

はい。そこは適切な判断ができていて、本当にその子にとってどこが一番ふさわしいのかというところについては、市の方で就学支援委員会もありますし、専門家にも入っていただいていますのでそこでしっかりと審議をしているところでございます。

判断基準が下がってきているということはありません。

●吉田委員

溝口さんの教員が足りないというお話の中で大丈夫だというお話しでしたが、私もこれはすごい感じていて、全校に通級指導教室があるということは、確かに親からすると送迎の手間もないし子供も時間のロスがないというのはすごくありがたいんですが、それよりも通常学級をもっとやわらかくして受け入れやすくすれば、そういったわざわざ指導教室全校でなくても何とかなるのではないかという部分もあるし、巡回でも十分間に合うのであれば無理して1校に1クラスにしなくても柔軟に対応できればいいのではないかなというのを感じたのと、もう1点新規に入る判断基準は決して下がってないっていうお話でしたが、私の下の子が支援級に入っていて、どうしてこの子が支援級にいるのだろうと思う子はやっぱりいるんですよ、このくらいの子は通常学級で受け入れられなければいくら先生がいても足りないんじゃないかと思うくらいの子はいて、もちろん一部分しか見てないのでその子を専門家がみたらやはり支援級が妥当っていう判断はわかるんですけども、もうちょっと通常学級でも受け入れられるような先生のスキルといいますか周りの土壌といいますか、そういったものをもっと頑張っていただきたいなと思います。

●学校教育課課長

特別支援教育は特別な支援と言いながらもすべての子にとって必要な支援であるというふうに考えておりますので、今吉田委員さんがおっしゃった通り、やっぱり教員がどの子にとってもこのニーズにこたえて、支援ができるっていうのがやっぱり一番理想的なところだと思いますので、市の教育委員会としても、子供支援リーダー教育研修会というのを年間5回昨年から開催しておりまして、各学校の全部の職員が出るわけにはいかないものですから、各学校でそういう子供支援のリーダー的なものを担える教員を集めて、そこで研修をして、またそれを各学校でも還元していきながら子供たちにとって適切な支援ができるように、体制を作っていくということで取り組んでおりますので、大きな課題ではありますが取り組んでいきたいというふうに思います。

報第70号 令和7年度不登校児童生徒への支援について

●学校教育課課長

資料に基づき説明

●吉田委員

家の下の子が不登校になったときに、担任の先生が主に窓口になってくださったのですが、なかなかちょっと理解がえられないところがあって結構苦しい思いをしたんですが、そのときに、学校でケース会議やっていますから、みたいな感じで言われるんですけど、その中身がわかんないまま、その結果だけこうしますって言われても保護者ってなかなか理解を得られないんですよ。ですから、対応している中で、ここで家庭との連携をもう少し強く打ち出していきたいなと思ひまして、やはり行き渋りだったり不登校というのは家庭が主な居場所になることもありますし、親の対応っていう大事ですし、親と学校が足並みそろえないとなかなか難しいので、学校でこういう対応しますってとてもいいんですがそれを家庭にうまく伝えるという工夫というところを考えていただきたいと思いました。

●学校教育課課長

保護者のお考えとか、状況とかもやはりそこはすごく大事なところなので、学校と家庭との連携、信頼関係も大事なところだと思いますので、そこは、学校にも伝えていきたいと思ひます。
ありがとうございます。

●鈴木委員

昨日1つ嬉しいことがあったので、中学生の寺子屋で中学校の親御さんから今までも何回も学校に行っていないと電話で連絡があったのですが、昨日また電話がかかってきて、「学校には行けてないが、寺子屋には行きたいと言っているけどそれでもいいですか」と寺子屋に連絡が来た子がいるんです。学校でやっているのに。だからどこにも繋がっていない子はやっぱりいろんな地域でもどこかに出ていける場所をたくさん作っていくことが大事で、やはり引きこもらせないっていうのが大事だということを感じました。

●学校教育課課長

学びの多様化について、静岡市の方がやっているのですが、県としてこうしていくという方針が私のところに入っていないので、よくわからないところもありますが、他県ではもうすでにスタートしているところがありますが、静岡市がどうなっているのかというところ、またこちらでも情報集めながら、県の方にも、静岡県としての考え方を聞いていかなければいけないと思ひています。

それから実は袋井北コミセンでも地域の皆さんが不登校の子たちに向けた寺子屋をやってくださいということで、スタートをしてくださっています。

学校は行きづらいけれどもここだったらいけるという場所が、その子なりの居場所が見つかっていいのかなというふうに思ひますので、そのような情報発信も学校と協力しながらやりながら考えていきたいと思ひます。

●教育監

1点、宣伝をしていいですか。

前回の校長会で校長先生方に不登校対策について協議していただいた中で、他市から来た校長先生がおっしゃるには、袋井市のようにほっとルームを開設してそこに支援員さんを配置するというのは素晴らしいというか予算もかかりますしなかなかできることではないと。そういうことをやっていることは私も本当に袋井市はすごくいいなと思ったと言う校長の発言があったことを伝えさせていただきます。

ありがとうございました。

●溝口委員

1 個だけ教えていただきたいですが、(4) のその他の不登校プロジェクトチーム会議と、最初に説明してくれたから発展した不登校の研究プログラムとの関係ってというのはどうなりますか。

「架け橋プロジェクト」

●学校教育課課長

まだ「架け橋プロジェクト」のところがまだはっきり動いていないところがあります、もちろんこのプロジェクトチームと連動していくことは考えられます。

●教育長

学びの多様化とその背景について少しお話させていただきます。私が県教委にいたときに、当時は不登校特例校というのは教育課程をもっと短くして、年間 700 時間ぐらいでやっていましたが、その時もある意味検討段階で実際に設置するというところまではいっていません。

私個人的に最大のネックだと思っているのは、学籍がその学校に移ってしまうということで、つまり、南小学校の子が不登校特例校に学籍が移るので、この分学籍はこの小学校には無くなってしまいうんですよ。となると、この地域から離れて他の学籍に移ってしまうので、元の地域の人といかに交流ができるかっていうことを確保してあげないと、なかなか課題があるかなというふうに私は思いました。学籍の問題はちょっと大きいですね。市としてはそういう課題も考えていきたいと思います。

まずは、政令市静岡市が行っているようなので、その様子も見て考えていきたいと思います。

●吉田委員

さっき教育監がおっしゃっていた支援員について、昨年度までは、大きい教室の一部分だけパーテーションで区切って机が並んでいるというすごく寂しくて使っている人もいないような状況だったんですが、今年はとてもいい部屋にしてもらって、支援員さんが付いたらやっぱりそこに人がすごく集まってきてとても温かい雰囲気になってきてるので、そうやって居場所づくりしてもらえたというのは本当にありがたいと思いました。感謝を伝えたいです。

報第 71 号 令和 6 年度 子ども読書活動推進計画(第 4 次)の取組状況について

"

●袋井図書館長
資料に基づき説明

●鈴木委員 1:33

昨日袋井南中学校の読み聞かせがスタートしまして、その読み聞かせの本を探しに行ったところ、ボランティアの人がすごく良くて、とても読みやすい本や魅力的な本がたくさん並んでいていいねという声がありましたので。もっとまちじゅう図書館が拡大するといいなと思いました。

ただ、中学校の昼休みの時間が短くて人もいないのでせっかくの図書館なのにもものすごくもったいないと思いました。

●教育長

学校図書館から司書の方が駆り出して非常に見違えるほど綺麗だっていうお客様があって、すばらしいなと思いながら、開館時間とする。

是非、開館時間については、学校の学校運営協議会等で話し合っていて、私たちの財産や、この地域資源をどうやって生かしましょうかみたいな話を話し合っていて、開館時間に先生がずっと張りつくわけにはいけないので、なかなかそこには問題があるかと思いますが、地域の力を借りて何とかできるという感じはしますので、ぜひ継続していきたいと思います。

それでは報告事項は以上で終了します。

7 その他

(1) 連絡事項

- ア 令和7年度「次世代人材育成・交流プログラム@SIST(アシスト)」の実施について
- イ 静岡理工科大学 令和7年度第1回公開講座
- ウ 第3次総合計画について進捗状況報告

(2) 次回定例会等の予定について

6月教育委員会定例会

令和7年6月30日(月) 午後1時30分 月見の里学遊館 集会室C

(3) その他

8 閉会

(午後3時15分閉会)